

第5回 境川かわまちづくり推進協議会議事要旨

1 開催日時 令和7年3月24日(月) 午後6時00分～午後7時30分

2 開催場所 浦安市役所4階 S2～4会議室

3 出席者

(委員)

陣内会長、鶴田副会長、鈴木委員、清家委員、大塚委員、浅川委員、後藤委員、横山委員、
内田委員、高柳委員、石川委員(計11名)

(事務局)

都市整備部 森田次長

道路整備課 赤堀課長、小泉課長補佐、竹内係長、広瀬主任主事、宮崎主任主事、河合主事
(事務局補助)

公益財団法人リバーフロント研究所 土屋、阿部、佐藤、仁田原、風間、利満、坂本

4 傍聴 2名

5 議 事

(1) 令和6年度のかわまちづくりの取組状況

(2) 来年度のかわまちづくりの進め方

6 会議経過

(1) 令和6年度のかわまちづくりの取組状況

事務局より令和6年度のかわまちづくりの取組状況のうち、全体スケジュール、社会実験の実施状況、水質浄化社会実験について説明を行ったのち、各委員より、以下の意見をいただいた。

(委 員)

- ・西水門が開放された際に非常にきれいな水が流入し、マイクロバブルのような泡が発生する様子が見られた。これは水質浄化を視覚的に実感できるものであり、市民にもぜひ見せたいと感じた。
- ・水への関心を高めるためにも、西水門の開放時間や排水機場のポンプによる排水の情報を分かりやすく掲示するなど、見たい人が適切なタイミングで観察できるような工夫が必要だと考える。
- ・川の上からでも水質の透明度が分かる仕組みとして、フロートに赤や青などの色をつけ、透明度によって見える色が変わるような工夫をすれば、市民が日常的に水質を意識するきっかけになるのではないかと。
- ・今回の実験では、塩分濃度に変化が見られなかった。長期的な課題として、水門の運用

により汽水域を復活させる仕組みを検討できれば良い。

(会 長)

- ・過去に市民による水質調査を行ったことはあるのか。

(委 員)

- ・以前、定期的に調査を実施していたことはあるが、結果に変化が見られず、徐々にモチベーションが下がり、現在では実施していない。実施していた時は、橋の中央から採水していたが、今回の実験では岸から採水を行った。

(会 長)

- ・採水場所や水深の違いは、調査結果にどのような影響を与えるのか。

(事務局)

- ・今回の水質調査では、基本的に水深の 2 割の位置で採水を行った。これは公共用水域の正式な水質調査基準に基づいており、St.2 と St.3 では、可能な範囲で水深の 8 割地点も試験的に採水したが、結果的に大きな違いは見られなかった。
- ・また、採水位置は川の中央が基本だが、今回は簡易的な方法として岸辺で採水を行った。St.3 では、船が停まっている水の流れがあまりないところで採水しており、その結果、3 回目の調査で水質が良くない結果が出たことから、周辺に水が溜まりやすかった可能性があると反省している。

(委 員)

- ・境川の水流について個人で調査した結果、西水門と東水門の水位に差があり、境川内の水位は市のインターネット情報によると 35～40cm 程度である。しかし、東水門を開けるとその水位は境川よりも 40～50cm 低く、また西水門も開ける時間帯によって境川の水位より低くなることもある。このため、境川の水質改善には旧江戸川から水を入れる必要がある。今後、このような観点から、もう一度調査して報告しようと思っている。

(会 長)

- ・今回の実験だけでは水門の運用が直接的に水質改善に繋がるか、すぐには結論が出ない。市民が中心となり、体験イベントを兼ねた水質調査実験を今後も継続していくとのことである。
- ・雨が水質に与える影響もあるのではないか。

(副会長)

- ・雨が降ることで街中のごみや路面上の汚れが河川に流れ込むことはある。このため、水質調査は雨が降ってから数日空けて実施するのが基本であるが、市民の調査としては、雨による水質変化を測ってみるのは良い。
- ・調査時期による水質の変化もある。冬は夏と比較すると水質が良くなる傾向にあるため、通年で調査を積み重ねていくのが重要と考える。

- ・市民に対して調査の内容と結果を発信・PRしていくことも重要と考える。

(会 長)

- ・水門の開放前後で水の色に変化が見られたにも関わらず、それが数値として表れていないのは何故か。

(委 員)

- ・西水門周辺では浚渫を行っていないため、水門開放により川底に堆積した物質が巻き上げられ水質に影響を与えている可能性がある。川底も含めて改善できると良い。

(会 長)

- ・今後も水質調査を継続していくとのことだが、毎回排水機場のポンプ稼動による強制排水を行うのか。

(事務局)

- ・今回はポンプ稼動による強制排水を実施したが、通常時や現在の実運用として実施している水門の開閉時など、あらゆるパターンや状況で調査をやっていきたいと考える。

(会 長)

- ・市民が興味を持って参加し、境川の水質を改善したいという思いをみんなで作っていくことが重要と考える。

事務局より令和 6 年度のかわまちづくりの取組状況のうちロゴマーク募集、登録記念イベント、市役所周辺右岸の整備について説明を行ったのち、各委員より、以下の意見をいただいた。

(副会長)

- ・ロゴマークの応募作品について、作品のみでなくデザインの背景や想いに目を向けるのも大切と考える。どのような印象的な言葉が出ているか、自動で抽出できるソフトを活用して整理した。これを見ると境川かわまちづくりの3本の柱である水・自然環境、歴史・文化、水辺・水面利用に関する言葉が満遍なく確認できる。べか舟や橋など、市民が印象深く捉えている言葉がわかり参考になる。

(委 員)

- ・ロゴマークはTシャツやステッカー、キーホルダーなどへの展開を想定した際に、白黒や反転して使用する場合や、濃色背景への適用、配置など、多様な使用パターンへの汎用性が重要と考える。既に候補が 10 作品に絞られているが、本来はまずこのような視点で作品を絞ることを考えた方が良かったかもしれない。
- ・副会長による分析は非常に興味深い。このような解析をもとに SNS などの広報活動も展開した方が良いのではないか。どのようなキーワードが境川と合わせて検索されているのかを解析することで、市民の関心を把握したうえで市民とコミュニケーションを取ってい

た方が良いと考える。

(委 員)

- ・ロゴマークのデザインの背景や想いに境川に対する想いや夢が含まれていると考える。これらを拾い上げることが重要と考える。

(会 長)

- ・ロゴマークを選ぶだけでなく、背景にある想いなど、応募作品に含まれる情報を有効に活用し、推進力にしていくことが重要である。

(委 員)

- ・基本的にはロゴマークはイメージを共有して、意識を統一するためのマークである。市民が「かわまち」や「賑わい」をイメージできるシンボルのようなものになっていくことを期待する。

(事務局)

- ・ロゴマークについては、一般投票で得票数が多かったものに決定したい。そのうえで、多様な使用パターンに対応するため、必要があれば、採用されたロゴマークの応募者と文書の取り交わし等により調整・修正を行うことも想定している。

(2) 来年度のかわまちづくりの進め方について

事務局より来年度のかわまちづくりの進め方について説明を行ったのち、各委員より、以下の意見をいただいた。

(委 員)

- ・これまでの成果として、イベント実施回数やかわまち認知度などの基礎となる数値を整理していただいたことは画期的であり、今後の数値目標の設定がしやすくなる点で良い。一方で、1年間の広報活動を経ても SNS のフォロワー数が限られており、「境川かわまちづくり」の認知度に関するアンケートでも「知らない」と回答した人が約半数を占めるなど、認知度の向上には課題があると考える。
- ・同じ広報活動を続けるだけでは効果が限定的であるため、キーワードプランナーを活用した検索行動の分析や、グループインタビューの実施など、より戦略的な広報展開が求められる。「作った」「配った」だけの広報ではなく、どのように伝えるかを工夫することが重要である。
- ・現在の活動は関連団体やその周辺の限られた人々が中心となっている印象があり、新規の参加者をどのように増やすかが課題となる。「かわまちづくり」支援制度への登録を受け、境川を中心に浦安の賑わいを創出するという素晴らしい取り組みが進められているが、認知度向上のためにはより幅広い関係者を巻き込むことが重要である。例えば、障がいのある方や高齢者が水辺に親しめる環境整備、商工会との連携によるイベント開催、市民スポーツ団体の活用、さらには高校生の視点を取り入れた広報活動など、さまざまな角度からのアプローチが考えられる。特に、SNS などを活用し、関係団体や地域の

人々が広報の担い手となる仕組みをつくることで、より効果的な情報発信が可能となる。現在の参加率が浦安市の総人口の 1～1.5%程度に留まっていることを踏まえ、新規の参加者を増やすための具体的な施策を検討する必要があると考える。

(委員)

- ・現在の総括の数値は主にイベント参加者を対象としているが、実際には境川を日常的に利用している人も多い。例えば、朝の犬の散歩やジョギング、週末のサイクリングなど、イベント以外の形で境川を活用している市民が多数いるものの、こうした利用者はカウントされていない。今後の取り組みとして考慮すべき点であると感じる。
- ・イベントは境川への関心を高める上で重要だが、それ以上に、境川沿いの環境を整備し、常にきれいな状態を保つことが重要である。ゴミがなく、走りやすく歩きやすい環境を整えること、トイレや休憩所の設置なども、利用の促進につながると考える。
- ・景観の整備も今後の課題であり、単に川的环境やイベントを充実させるだけでなく、緑の整備や景観に関するルールづくり、利用者のルールの策定も重要である。これらの取り組みは短期間で成果が出るものではないが、長期的な視点で継続的に取り組んでいくことが大切である。

(委員)

- ・多くの関係人口を巻き込むことが重要であると考え。近隣住民は最も身近な関係人口となるため、水質調査やイベントの実施にあたり、案内チラシを配布するだけでも効果的と考え。

(委員)

- ・境川を「浦安の背骨」と捉え、まちづくりの視点からその周辺地域も含めて考えていくことが重要である。単に川沿いでイベントを開催するだけでなく、拠点を設けることで、歴史や自然を学べる場を提供し、日常的な利用や教育の場としての活用も考えられる。例えば、タイドプールを設置し、案内人が説明を行うことで、学校の授業にも活用できるようにするなどの広がりを持たせることが望ましい。
- ・マネジメント会議の実施によりコアメンバーの意識共有は進んでいるが、他のメンバーと距離が生じているため、境川かわまちづくり計画に掲げる 3 つの基本方針により部会を設け、自由に議論できるようにする必要がある。そこに新たな参加者を迎え入れ、多様な人々が関わり、新たなアイデアを取り入れる仕組みを作る必要がある。

(委員)

- ・5 年前に浦安青年会議所が境川の水を抜く計画を立てたが頓挫したと聞いており、本事業が進めば再び実現の可能性があるのではないかと期待している。
- ・前回の協議会で「境川かわまちを進める会」が資金管理を担うという話があり、ボランティアでの運営は厳しいのではないかと意見が出ていたが、その方針について検討状況はいかがか。

(事務局)

- ・進める会は団体に所属していない個人も含め、興味があれば誰でも参加できる裾野の広い集まりにしていくという方向性、資金管理の中心を協議会ではなく進める会が担うという方向性が、前回の協議会でまとまったと認識している。
- ・ただし、現在、参加基準の精査や団体間の人数差による意見の偏りなど、具体的な課題の整理を進めており、詳細を示せる段階にない。今後、社会実験を通じて課題の解消を図りながら検討を進めていく予定である。

(委 員)

- ・かわまちづくりを進めるにあたり、単に資金管理の議論をするだけでは不十分であり、ハード整備も含めた全体的な計画の中で議論を進めることが重要である。形だけを先行して整えるのではなく、将来的な市との役割分担を見据えた検討が必要である。

(委 員)

- ・市では、浦安市の愛着や誇りの対象を調査する「シビックプライド推進事業」を実施している。来年度本調査を実施する予定であるが、今年度実施した予備調査では境川に対する愛着や誇りを持つ市民が一定数いることが確認された。一方で、かわまちの認知度は低く、広報戦略として単発の情報発信では十分に届かない可能性がある。そのため、境川に関心を持つ潜在層への効果的なアプローチを検討する必要がある。特に、広報紙面の活用において、単発ではなく連載形式で境川の歴史や市民生活との関わりを紹介することで、認知度向上につながるのではないかと考える。

(委 員)

- ・境川沿いには 73 隻の船舶が係留されており、今後のかわまちづくりにおいて、これらの船舶との共存について議論を進めたいと考えている。係留船舶の取り扱いや今後のあり方について参考にしたいため、引き続き検討をお願いしたい。

(委 員)

- ・行政の関与のあり方については慎重に考える必要がある。行政が関与すると自由な発言が難しくなる場面もある。
- ・過去の経緯に関する理解も重要であり、「なぜ現在こうなっているのか」という背景を知る機会を提供することが、今後関わる人々にとっても有益であると考えている。そのため、適切な形で情報発信や周知を行うことが望ましい。

(副会長)

- ・境川と人々の関わり、特に水害や利水の歴史が景観の観点から重要であることを理解してもらいたい。また、日常生活と防災がつながる視点を持つことが大切であり、水質調査の際に水の流れを調べる重要性を伝えるのも良い。かわまちづくりだけでなく、雨との関わりや市民が安心して暮らせるまちづくりを目指すことも重要である。

(会 長)

- ・埋め立てにより工業化ではなく、住宅地としての発展を目指した点は浦安固有の財産で

ある。江戸時代やそれ以前からの長い歴史を振り返り、浦安の歴史や固有性をシビックプライドに繋げる戦略が必要で、例えばビジュアル的な冊子としてまとめ、市民による取り組みを促進することが重要ではないかと考える。

(委 員)

- ・かわまちづくりの推進には、まずターゲットとなる層を明確にすることが必要がある。例えば、若者、高校生、障がい者団体、高齢者施設など、各セクターに向けたアプローチを考えるため、市庁内の横の連携を図り、各課がアイデアを出し合う体制が重要である。
- ・子供向けの絵本や紙芝居作成など、広報活動を工夫することも考えられる。

(委 員)

- ・市では、年に1回、高校生がテーマを決めて取材・制作する「青春版広報うらやす」を発行し、市内の高校や中学校に配布する取り組みを行っている。境川をテーマに子供たち目線で川の歴史や今後について広報してもらい、子供たちを通じて川の認知を高め、盛り上げていくのも良いと考える。

(会 長)

- ・非常に重要な視点である。東京の芝浜小学校では、4年生が地域学習を通じて地域について学び、1年間にわたり課題を調査する取組を実施している。先日、日の出ふ頭で発表があったが、提案までリサーチした素晴らしい取組であった。
- ・市だけでなく、地域で行われている取り組みや、まちの本質的な課題、テーマが多数あり、これらは連動するものである。

問い合わせ先 都市整備部 道路整備課 河川海岸係 電話:047-712-6577